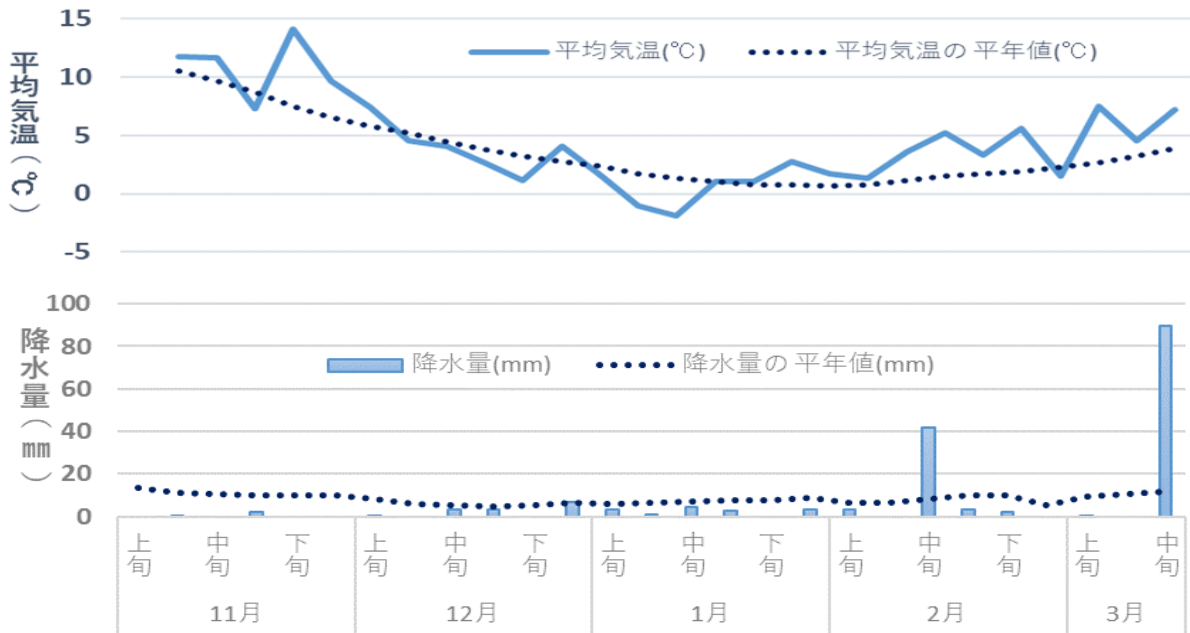


[令和3年3月23日]

仙南地域の麦作情報

大河原農業改良普及センター

1 気象経過(丸森アメダス) ※令和2年11月～令和3年3月中旬



- ・ 平均気温は11月は平年より高く推移し、12月初めから1月上旬まで低温傾向で、1月下旬以降は気温が高く経過している。降水量は11月から2月上旬まで少なく、2月中旬と3月上旬にまとまった雨が降った。

2 生育経過等について

令和3年産(令和2年は種) 生育調査結果(3/19現在)

調査日	品種等	播種日	項目	本年	前年比(差)	平年比(差)※
3月19日	シュンライ 金ヶ瀬	11月14日	草丈(cm)	13.4	96	115
			莖数(本/m ²)	863	104	131
			幼穂長(mm)	1.9	-0.6	-0.6
	ホワイトファイバー 金ヶ瀬	11月5日	草丈(cm)	17.8	114	—
			莖数(本/m ²)	1350	117	—
			幼穂長(mm)	2.4	0.2	—

※平年は過去5カ年の平均

- ・ 11月以降の気温は平年よりも高めで推移したが、降水量が少なく、出芽は遅れ気味であった。
- ・ 12月以降、低温傾向で推移したため、初期生育は緩慢であったが、1月下旬以降の高温傾向と2月中旬の降雨により生育は回復傾向になり、3月も高温傾向が続いて

いるため生育は早まっている。3月中旬以降、播種が早かったほ場から幼穂形成期に達してきていると見られる。

2 今後の作業について

- 1 「麦踏み」は適期を過ぎたほ場が多いと見られる。
- 2 幼穂形成期追肥の実施と減数分裂期追肥の準備をする。
- 3 生育が早まってきていることから、出穂・開花期は早まると見込まれるので赤かび病防除の準備を早めに行う。

(1) 「麦踏み」について

- ・生育が早まっていることから、大麦は3月中旬から、かなりのほ場で、茎立ち期を迎えており、茎立ちしている場合は麦踏みの時期は過ぎていていると見られる。
- ・小麦はまだ可能と見られるが、茎立ちしている場合は実施を見合わせる。ほ場が乾いた状態で実施する必要があるため、ほ場の状態を確認して実施する。

(2) 「追肥」について

① 大麦の追肥

(肥料単位：kg/10a)

追肥時期	追肥時期の目安	追肥量(窒素成分)	硫安現物
幼穂形成期	幼穂長2～3mm	2.5kg/10a	12kg/10a
減数分裂期	幼穂長20～30mm	生育良好時	2.5kg/10a
		生育不良時	2.0kg/10a

(注意) 大麦では、生育量が不足しているほ場に通常量の追肥をすると硬質麦を生じやすくなるため、この表から1kg程度減らすこと。

② 小麦の追肥

追肥時期	追肥時期の目安	追肥量(窒素成分)	硫安現物
幼穂形成期	幼穂長2～3mm	2.0～3.0kg/10a	10～15 kg/10a
減数分裂期	幼穂長20～30mm	5.0kg/10a	25kg/10a
出穂期～穂揃期		2.0～3.0kg/10a	10～15kg/10a

(4) 病害防除

- ・赤かび病防除は出穂期以降（開花期頃1回目、その7～10日後2回目）となるが、今年度は生育が早まってきているので早めに準備をする。

(5) 湿害対策

- ・排水改善には特に注意し、明きよの補修などを早めに実施する。

※雑草防除について

- ・今年度は生育が早まっており、かなりのほ場で3月中旬には節間伸張期～茎立期に入ってきていると見られる。生育の状況、使用基準を確認し、必要に応じて防除する。

※参考

今後の生育予測

生育予測（生育調査ほ：シュンライ）

予測値	本年	前年	平年
減数分裂期	4月22日	4月19日	4月18日
出穂期	4月29日	4月27日	4月26日
開花期	5月5日	5月3日	5月2日